

神戸大学(兵庫県)

日本の国際化の原点、神戸で学ぶ日本文化

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 歴史と特色

神戸大学は、1902(明治35)年に高等教育機関として設置された神戸高等商業学校を創立の起点としており、120年を超える歴史をもつ国立大学法人です。

「人文・人間科学系」「社会科学系」「自然科学系」、「生命・医学系」の4大学術系列の下に11の学部、15の大学院、1研究所と多数のセンターを持つ日本有数の総合大学であり、先進的で充実した教育・研究環境を備えています。

「真摯・自由・協同」の理念の下、人類社会の 貢献に資する普遍的価値を有する「知」を創造す るとともに、人間性豊かな指導的人材を育成する ことを目指しており、国際都市として開放性に富 む神戸の文化や環境を活かした異文化との交流も 重視しています。

2) 教職員 - 学生数等 (2024年5月現在)

• 教 員 数: 1,585名

• 学 生 数: 学部学生 11,460名

大学院学生 4,539名 計 15,999名

〈内留学生数 1,307名 (88h国·地域)〉

② 国際交流の実績(2024年5月現在)

海外の基幹大学との学術交流や留学生の交換を 積極的に進めており、世界64h国·地域の著名な大 学や研究所など、382機関と学術交流協定を結んで います。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2024年: 留学生数 1,307人、日研生 6人 2023年: 留学生数 1,291人、日研生 3人 2022年: 留学生数 1,229人、日研生 4人



④ 地域の特色

神戸大学の所在地である神戸市は、1868年に兵庫港として開港以来、国際貿易の拠点として栄え、海外から多くの人や文化を受入れ、海と山に囲まれた国際都市として発展してきました。

また、神戸市は兵庫県の県庁所在地として、地方 の行政、経済、文化、教育の中心的役割を担い、国 内でも有数の大都市です。

■研修・コースの概要

① 研修・コース目的

(a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

日本語・日本文化研修留学生は、神戸大学グローバル教育センターに所属し、日本語の4技能(読む・聞く・書く・話す)や異文化コミュニケーション、

日本社会や日本文化への理解を深める授業を履修します。また、各研修生の興味関心に合わせて、個別の研究テーマについてリサーチする「課題研究」に取り組みます。さらに、文学部、国際人間科学部、教養教育院で開講される授業を履修することができ、日本人学生と共に学ぶ機会があります。一連の学習を通して、研修生が高度な日本語能力を習得し、日本社会・日本文化に対する深い知識と国際感覚を養うことを目指します。

③ 受入定員

10名 (大使館推薦5名、大学推薦5名)

④ 受講希望者の資格、条件等

・身分及び専攻

外国(日本国以外)の大学に在籍し、日本語・ 日本文化を主専攻として履修している学部学生。 (ただし、1年次生を除く)

・日本語能力及び学業成績

すでに基礎的な日本語の学習を修了し、本学において日本語で行われる日本語・日本文化等に関する授業を受講できる日本語能力(日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験2級」(新基準「N2」以上)を有する者で、在籍する大学における学業成績が上位の者。

その他

大学推薦による受入れは、本学と学術交流協 定締結大学からの受入れを優先します。

⑤ 達成目標

高度な日本語能力と日本社会・文化に関する豊富な 知識を兼ね備えた産官学の専門家を育成することを目標としています。具体的には、日本語・日本文化・日本学を専門とするの教育者や研究者、日本語通訳者・翻訳者、知日家として官公庁や企業で活躍する専門家などです。

⑥ 研修期間 (在籍期間)

研修期間:2025年9月下旬~2026年8月下旬 (在籍期間:2025年10月1日~2026年8月31日)

⑦ 奨学金支給期間

2025年10月 ~ 2026年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬: 渡日

10月: オリエンテーション

秋学期開始

11月:日本文化体験旅行

12月: 国際学生交流シンポジウム

・日本人学生との交流シンポジウム

1月: 秋学期 課題研究発表

4月:春学期開始

7月: 春学期 課題研究発表・報告書作成

8月: 日本語・日本文化研修修了

日研生プログラム修了式・送別会

8月下旬: 帰国

⑨ コースの修了要件

秋学期・春学期を通じて、必修科目(60時間)、選択必須科目(60時間以上)、選択科目(300時間以上)の合わせて420時間以上の修得及び研究課題の発表を修了要件としており、この要件を満たした者に修了証書を授与します。

グローバル教育センター教員による判定会議で総合的に 修了を判定します。

なお、単位の付与はできませんが、各学期末に成績証明書を交付します。また、留学生の在籍する大学から照会があった場合には、授業内容や成績に関する資料の提供に応じます。



日本語 · 日本文化研修留学生修了式

(10) 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

研修科目は、日本語能力を高めるための多彩な日本語科目、日本事情・日本文化に関連する科目、研修生の興味関心に沿った研究テーマに取り組む「課題研究」、文学部、国際人間科学部、教養教育院で日本人学生などと共に履修する学部専門科目及び全学共通授業科目、多様な学生達と共に学ぶ国際/多文化間共修科目などからなります。

このうち、「課題研究」とを必修科目とし、日本語の作文科目(中上級または上級レベル)、ビジネス日本語や異文化コミュニケーションに関する科目を選択必須科目としています。他の科目は、研修生の日本語能力や興味関心に応じて自由に選択できる選択科目としています。

2) 研修・コース開設科目

I) 必修科目(60 時間)

·課題研究(後期30時間、前期30時間)

担当教員の指導の下、学期ごとに所定の研究 テーマに取り組みます。研修の集大成として自ら の関心に従って研究を行い、その成果を発表し、 修了レポートを作成します。各学期のテーマは下 記を予定しています。

秋学期のテーマ:ジェンダー問題

日本の社会・文化に関する理解を深めるために、 自国と日本のジェンダー問題について資料を収集 し、発表資料作成に取り組みます。1月下旬に教 養教育院の全学共通授業科目「男女共同参画と ジェンダー」にて研究発表を行い、当該授業の受 講生と共に意見交換を行います。

春学期のテーマ:地域研究

研修生各自が関心のある研究テーマを設定し、 自律的に資料の収集・分析・考察を行います。調 査研究の成果は、中間発表・最終発表を経て、課 題研究修了レポートとしてまとめます。

II) 選択必須科目(60時間以上)

過去に研修生が履修した専門科目(例)

- · 「日本語I A/B」
- ·「日本語作文中上級A/B」
- ・「ビジネス日本語 I A/B」
- ・「異文化コミュニケーション演習A/B」

Ⅱ)選択科目(300時間以上)

研修の大きな特徴は、グローバル教育センター が提供する日本語科目も、文学部、国際人間科学 部、教養教育院開講の科目も履修できることです。

· 日本語科目

基本的にレベルごとに技能・目的別に開講されています。研修生のレベルに応じて、中級から上級レベルの科目を自由に履修できます。

日本語運用能力を補強することを目的として、 文法、会話表現、読解、文章表現、漢字語彙と技 能別に学習します。上級では学術的なトピックを 中心とした日本語学習を通して、大学において教 育・研究を円滑に進めることのできる日本語運用 能力を習得できます。

過去に研修生が履修した日本語科目 (例)

- ▶ 集中日本語(中級・中上級)
- ▶ 聴解・会話・読解・作文・文法
- ▶ 日本語特別演習 (N2·N1対策)
- ・日本事情・日本文化関連専門科目

主として本学の文学部、国際人間科学部で開講されている日本事情・日本文化に関連する専門科目の中から、研修生各自の問題意識・関心に応じて履修できます。これらの科目の履修により、日本文化に関する知識を深めるとともに、日本語・日本文化の修得に必要な方法論・技能等を習得し、日本語・日本文化研究のための基礎を養うことができます。

過去に研修生が履修した専門科目(例)

文学部

日本社会文化論演習・国文学特殊講義・社会学特 殊講義

国際人間科学部

日本語コミュニケーション・日本社会文化論・文 化翻訳論・コミュニケーション構造論

※他学部の授業も聴講できる可能性があります。

3) 国際/多文化間共修授業

研修生は、教養教育院で開講されている以下のような国際/多文化間共修授業を履修することが可能です。

・グローバルリーダーシップ育成基礎演習

本授業は、国内学生(日本人学生等)と留学生が毎年12月に学外の宿泊施設で開催する神戸大学国際学生交流シンポジウムの企画、立案、準備、運営を協働で行うプロジェクトベースの学習を通して、多様な他者と協働する際に必要な異文化間能力、リーダーシップ、コミュニケーション能力を涵養することを目指すもので、日本語・英語のバイリンガルで開講されています。



グローバルリーダーシップ育成基礎演習

・複言語共修セミナー(タンデム)

本授業は、国内学生(日本人学生等)と留学生がペアワークによりお互いの母語を教え・学び合うタンデム学習を行います。タンデム学習による受講学生の主体性育成と互恵的な学びを通して、受講学生が自分の言語学習活動の再考を行い、自律学習促進へとつなげることをめざします。

・多文化共生のための日本語コミュニケーション

本授業では、多文化共生社会の概念について知識を深め、その社会の構成員として必要となる基礎知識や能力を涵養することを目指します。日本社会や大学のキャンパスにおける多様性について、ケース・メソッドの手法を用いたディスカッションやグループワークを通して学びます。

① 指導体制

・日研生担当教員の黒田千晴准教授が当プログラム全体を統括します。

a. 学業面

コース期間を通して「課題研究」の指導を行います。

b. 生活面

コース期間を通して、上記の日研生担当教員及びグローバル教育センター(相談指導ユニット)の専任教員2名が必要に応じて相談業務に当たります。

- *相談指導ユニット専任教員
- •河合 成雄 教授
- •黒田 千晴 准教授

■宿 舎

神戸大学では、留学生数の増加に伴い、希望者全員 が大学の留学生用宿舎に入居できるとは限りません。 なお、大学では夫婦・家族室については用意できませ ん。

- ・入居期間は11ヶ月間です。
- ・寄宿料:月額 4,700円~21,000円(2024年度)宿舎によっては、共益費等が必要な場合があります。
- ・宿舎により異なりますが、机、イス、ベッド、冷蔵庫、洗濯機等が備わっています。
- ・通学時間は、電車等を利用して30~50分です。
- ・その他(光熱水費等は各自で負担となります。)



■修了生へのフォローアップ

修了生には、本学の海外同窓会ネットワークへの加入(登録)を呼びかけ、本学の各種情報をお知らせすると共に進学や就職に関する相談などのキャリアサポートも行っています。さらに、同窓生間の情報交換に役立てています。

日研生プログラムを修了した留学生が、在学する大学を卒業後に日本の大学院への進学を考える機会を提供します。

本学を修了した126名のうち、半数以上が日本企業や日本関連の仕事に就き、10名以上が、日本の大学院に進学しています。

Facebook: Kobe University International

Alumni Association

https://www.facebook.com/KobeUniversityIntern

ationalAlumni

■問合せ先

神戸大学学務部国際交流課留学生支援グループ

住 所:〒657-8501

兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1

TEL: +81-78-803-5263 (直通)

FAX: +81-78-803-5289

E-mail: stdnt-ryulife@office.kobe-u.ac.jp

実施担当:

グローバル教育センター 黒田千晴准教授 E-mail: kuroda@port.kobe-u.ac.jp

神戸大学HP:

http://www.kobe-u.ac.jp

神戸大学留学生向けHP:

https://www.kobe-u.ac.jp/en/academics/

神戸大学大学教育推進機構グローバル教育センター

HP ·

http://www.gec.iphe.kobe-u.ac.jp/